



**与右衛門** 「わあ、本です。ね。何の本ですか。」

**おじいさん** 「武士にとって、大変役に立つ本じゃ。『庭訓往来(ていきんわらい)』と『貞永式目』という本だ。これをしつかり学んでおくと武士としてのきまりや生活に役立つことが、よく判るように書いてあるそう。まずは、この本が読めるようになると良い。近くにお寺があるので『教えていただきたい』と、頼んでこようと思う。」

**与右衛門** 「私のために買ってくださいだったので。ありがとうございます。ぜひ、勉強したいのでお願いします。」

**おじいさん** 「これからの武士は、学問をし、いろいろな知識を身につけることが大切だ。わしは、字の読み書きを習わぬまま大人になったので、ずいぶん苦勞をしてきた。与右衛門は、これからしつかりと勉強すると良い。まずはこの二冊の本が手始めじゃ。」

**与右衛門** 「おじいさん、判りました。しつかり勉強します。」

⑦ おじいさんは、早速近くにあるお寺

に与右衛門さんを連れて行き、和尚さんに本の読み方を教えてくれるように頼みました。和尚さんは、快く引き受けてくれました。

**和尚さん** 「そなたが与右衛門どのか。何歳じゃ。」

**与右衛門** 「はい。私は中江与右衛門と申し、十歳です。」

**和尚さん** 「しつかりとあいさつができるのう。明日の朝から始めよう。」

**与右衛門** 「はい。ありがとうございます。よろしくお願いします。」



**和尚さん** 「与右衛門どの、そなたが早くわかり、感心したぞ。実はお奉行から、そなたが立派な武士になるよう、学問を教えてくださいと頼まれた。わしは寺の和尚だから、何が立派な武士なのかわからぬ。だが、立派な人間になる道ならばわかる。次は、この『大学』という本を読んでみたらどうじゃな。中国の孔子という学者の教えが書いてある。」

ら、そなたが立派な武士になるよう、学問を教えてくださいと頼まれた。わしは寺の和尚だから、何が立派な武士なのかわからぬ。だが、立派な人間になる道ならばわかる。次は、この『大学』という本を読んでみたらどうじゃな。中国の孔子という学者の教えが書いてある。」

**与右衛門** 「どのようなことが書いてあるのですか。」

**和尚さん** 「立派な人間になるための教えが書いてある。」

『大学』を手に取った与右衛門さんは、本を開いてみました。難しい漢字ばかりが、びつしりと並んでいたのが驚きました。

**与右衛門** 「難しい知らない字ばかりですね。早く読めるようになりたいです。」

**和尚さん** 「その思いこそが大切なのだ。分からない時は、遠慮せずにたずねて来なされ。」

**与右衛門** 「一生懸命勉強したいので、よろしくお願いします。」

⑧ 屋敷に戻った与右衛門さんは、わくわくしながら、和尚さんから授かった本を開きました。知っている漢字の意味を考え、分からない難しい漢字の意味を読み取るうと、くり返し、くり返し考えました。しかし、少し手紙が書けるくらい力では何ともなりません。与右衛門さんは、夜明けを待って和尚さんの所に尋ねに行きました。

**与右衛門** 「和尚さん、まず文字の読み方から教えてください。知っている漢字が少なく、意味の読み取りができませんでした。」

**和尚さん** 「そなたにその本を渡したのは、自分の力がどれほどかを分からせようとしたからだ。では、素読といって、意味を考えることは後にして、漢字をそのまま読むことから始めよう。」

人間として正しい心を持つことが大切なのですね。」

**和尚さん** 「その通りだ。そなたは米子から険しい山道を越え、海をわたって大洲に来る旅の途中で、幼い子やお年寄りに優しく力づけたり、手を貸してあげたりしたそうじゃな。その人を愛し、人を救う心をもつことが、本当の正しさなんだよ。」

**与右衛門** 「和尚さん、よく解りました。この教えの通り、学問に励んで、心正しく、やさしい人間になります。これからもしつかり学びます。」

**和尚さん** 「そうじゃ。学問をする大切さに、よく気づけた。がんばりなされ。」

**与右衛門** 「はい、よく分かりました。ありがとうございます。」



**和尚さん** 「『大学』のはじめの文から読んでくれば、明徳を明らかにするにあり。民を親しむにあり。至善(しぜん)に止まるにあり。』同じ所を読みなされ。」

**与右衛門** 「だいがくのみちは、めいどくをあきらかにするにあり。たみをしたしむにあり。しいぜんにとどまるにあり。」(くり返す)

**和尚さん** 「よく言えたのう。言えたら覚えなされ。覚えられたら、家でも読みなされ。すらすら読めるようになるとよいな。」

こうして『大学』の勉強は、読むことから始まりました。

⑨ ある日のことです。

**和尚さん** 「さあ、始めよう。そなたは後述に続きなされ。『天子より以て庶人に至るまで、壹是に皆身を修むるを以て本となす』」

**与右衛門** 「てんしよりもって、しよにんにいたるまで、いつしに、みをおさむるをもつて、もととなす」

与右衛門さんは、この文を読んだ時、

とから始まりました。



心できらつとひらめきを感じました。

**与右衛門** 「和尚さん、これはどういう意味ですか。」

分かつたら、意味が解りやすくなるものだ。まずは、漢字の意味を考えながら、何回も読んでごらん。次第に意味が解ってくるものだ。自分で考えてみるが良い。自分で考えれば力がつく。しつかりがんばりなされ。」

**与右衛門** 「和尚さん、分かりました。家に戻って何度でも、解るまで読んでみます。」

与右衛門さんは、和尚さんの励ましを受けて、自分の力でやってみようという気持ちになりました。家に帰った与右衛門さんは、さつそく文字の意味を考えながら、くり返し、くり返し声を出して読みました。そのうちに、心に光が差し込むように、書いてある意味が解ってきました。

**与右衛門** 「こういう意味ではないだろう。『人と生まれた者は、だれでも自分の行いを正しくすることが根本である』」

そうだ。本にその通りだ。解った。『自分で考えてみるが良い』と言われた和尚さんに、間違いないかお尋ねしてみよう。」



**与右衛門** 「やはりそうでしたか。とても大切なことが解りました。実は私は、立派な身分の武士になるために、学問をしよう思っていました。しかし、その前に、

と、そなたのような子どもであるうと、正しく生きることは、みんな平等なんだよ。」

⑩ 翌朝を待たず、与右衛門さんは和尚さんのお寺に行きました。

**与右衛門** 「和尚さん、よく解りました。私が読み取ったことが正しいかどうか、聞いていただけませんか。」

**和尚さん** 「そなたは、明日が待たなくて、今日の内にきつと来ると思っていた。実は、心待ちにしていたところだ。まずは、部屋に入りなされ。」

**与右衛門** 「ありがとうございます。よろしくお願いします。私は、『人として生まれた者は、だれでも自分の行いを正しくすることが根本であり、身分とか、大人とか、子どもとかの区別なく、人間として大切なことである。』と解りました。和尚さん、こういう意味でしようか。」

**和尚さん** 「よく読み取れたな。その通りじゃ。人はだれでも自分の行いを正しくすることが根本だと書いてあるのだ。身分が高いとか低い、また、大人であろうと、そなたのような子どもであるうと、正しく生きることは、みんな平等なんだよ。」

と、そなたのような子どもであるうと、正しく生きることは、みんな平等なんだよ。」

⑪ 家に戻った与右衛門さんは、もう一度、和尚さんに教えてもらった意味を考えながら大きな声で、何度も読みました。与右衛門「天子より以て庶人に至るまで、壹是に皆身を修むるを以て本となす」

(何度か、くり返し読む)

**与右衛門** 「これは、何と尊く大切な教えだろう。『大学』という大切な教えを書いた本が、昔から伝わっていて、この私とその意味を学ぶことができるのは、何とありがたいことだろう。」

与右衛門さんは、こう思うと、感激のため涙があふれて止まりませんでした。

**与右衛門** 「和尚さんは、こういう話も私にされたな。『聖人、学んで至るべし。そなたは、身をもって、それを世の中に示すのだ



この時、与右衛門さんは、数え年十一歳(満十歳)

よ。』私は、一生学問にはげみ、この『大学』の教えのとおり、身をおさめて立派な人になろう。それでこそ、人間に生まれたかいたがあるのだ。」

でした。この志を一生忘れず、自分の勉強に生かして、学問に励みました。

藤樹先生は、大人になってから、自分の立てた志を振り返って、『学問の初め、志を立てるより先はなし』と、言っておられます。何事も、志を立てることから始まるのですね。

(おしまい)

- ▼脚本・挿絵 高島藤樹会教材委員会
- ▼制作委員 足立清勝・飯田典子・石黒紀代子 北川暢子・清川貞治・高谷美智子 山本義雄 (五十音順)
- ▼参考文献 『藤樹先生』(高島市教育委員会発行) 『物語 中江藤樹』(松下亀太郎 著) 『藤樹先生年譜』(藤樹書院発行) 『中江藤樹』(滋賀県安曇川町発行)